

# 環境にやさしい容器包装とリサイクル

一般廃棄物排出量の削減(リデュース・リユース)と再生利用(リサイクル)を目的に、容器包装リサイクル法が施行されました。ユニーは特定事業者として再商品化やリサイクルに取り組み、家庭から出るごみの約6割(容積比)を占める、容器包装やレジ袋の削減に取り組みました。また、お客様とメーカーとで容器包装の軽量化に取り組むとともに不要な製品を引き取るなど3Rを実践し環境負荷低減に取り組んでいます。

**1** 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。

- ◆ノーレジ袋キャンペーン
- ◆レジ袋無料配布の中止 ◆贈答品などの簡易包装
- ◆ばら売りなど、容器包装を使わない販売
- ◆どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化
- ◆トレイを使わない販売の検討
- ◆マイボトルやマグカップなどの利用促進

**2** サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

限りある化石資源(石油)を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。

- ◆環境配慮商品ecoIonの容器にバイオマスプラスチックを使用
- ◆有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用
- ◆生鮮食品の販売に生分解性バイオマスプラスチック、ポリ乳酸製容器包装を使用

**3** 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。

- ◆リサイクルによる店頭回収
- ◆使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする
- ◆再生資源として製品(トイレットペーパーなど)やベンチなどにリサイクル
- ◆ペットボトルキャップを店頭回収し、自動車部品などへのアップサイクルを推進

## 1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

### レジ袋削減への取り組み

レジ袋の歴史は古く、1970年代にスーパーで商品の持ち帰り用に使われ始めました。薄くて丈夫、水にも強く便利なことから瞬間に社会に浸透しました。ところが一度使えば廃棄され、自然には分解しないことから、ゴミの増加や自然破壊につながると大きな問題になり、消費者団体などによる「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まり、ユニーでは1989年からレジ袋削減に取り組んでいます。

2001年からはマイバッグを配布、2006年には「ノーレジ袋キャン

ペーン」を展開したり、啓発活動を進めましたが効果が出ず、2007年からは「レジ袋無料配布中止(有料化)」を始めました。廃棄されたレジ袋を焼却することでCO<sub>2</sub>が発生すること、原料である化石燃料(石油)の枯渇なども問題にされ、持続可能な社会の妨げになることから、ユニーでは2014年2月に全店の食品売り場でレジ袋無料配布の中止に踏み切りました。

1989



▲愛知県一宮市でお買い物袋持参運動を開始

2001



▲マイバッグキャンペーンを開始

2006



▲ノーレジ袋キャンペーンを開始

2007



▲レジ袋無料配布中止(有料化)開始

2012



▲バイオマスプラスチックレジ袋の使用開始

2014

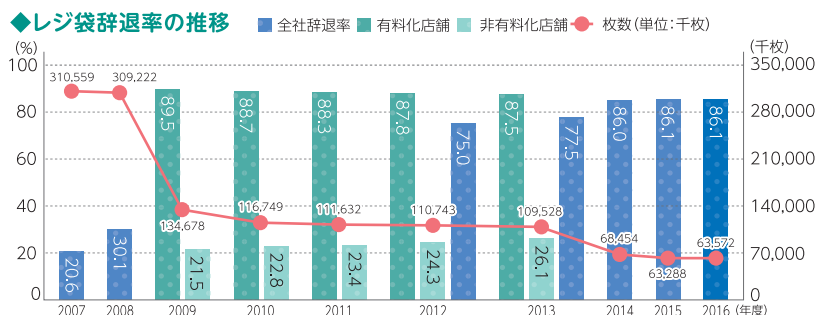


▲全店でレジ袋無料配布中止(有料化)

### レジ袋辞退率の推移とレジ袋使用量の推移について

ユニーでは2007年からレジ袋無料配布中止(有料化)を開始しました。当初はユニー全体で年間3億枚を超えるレジ袋を使用していましたが、無料配布中止店舗を拡大することによって2013年には1億枚近くまで削減しました。レジ袋辞退率も年々向上し90%近くまで向

上しました。2014年に全店での無料配布中止を実現し2015年にはレジ袋は6,328万枚まで削減しました。環境負荷の面からもレジ袋がマイクロプラスチックとして海洋汚染の要因であることから、レジ袋の使用削減を継続的に呼びかけていきます。



◆レジ袋使用量と容器包装リサイクル法委託金額の推移

| 年度   | 枚数(単位:千枚) | 重量(単位:t) | 委託金額(税込)  |
|------|-----------|----------|-----------|
| 2007 | 310,559   | 1,818    | 2億9,729万円 |
| 2008 | 309,222   | 1,851    | 2億7,978万円 |
| 2009 | 134,678   | 1,029    | 2億2,272万円 |
| 2010 | 116,749   | 964      | 1億6,655万円 |
| 2011 | 111,632   | 851      | 1億6,154万円 |
| 2012 | 110,743   | 839      | 1億4,868万円 |
| 2013 | 109,528   | 821      | 1億5,804万円 |
| 2014 | 68,454    | 616      | 1億6,104万円 |
| 2015 | 63,288    | 587      | 1億3,557万円 |
| 2016 | 63,572    | 573      | 1億2,489万円 |

※容器包装リサイクル法に基づき、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額

## レジ袋無料配布中止(有料化)

ユニーは、2007年6月、横浜市でのピアゴ中山店(現在閉店)で初めて有料化を開始しましたが、自治体や消費者・同業者との連携が取れず、またお客様からのご理解がいただけず、来店客数・売り上げも一時低迷と厳しいスタートでした。

- 1 自治体が、レジ袋削減は「廃棄物削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に知らせ、主体的に取り組むこと
- 2 地域の市民団体が支援してくれること
- 3 地域の小売業者など連携して参加すること

自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し話し合い、協定書を締結するよう努める。

### 地球環境活動に寄付

有料レジ袋を購入していただくと、ユニーは1枚につき1円を地域の自治体の環境活動に寄付します。

◆2016年度実績  
30,641,687円



金沢市長から感謝状を受け取るアピタ金沢店 彦野店長



岡谷市長から表彰状を受け取るレイクウォーク岡谷 井戸支配人

## 減装(へらそう)ショッピング

家庭から排出されるごみの約60%が商品の容器包装だといわれています。容器包装には商品の品質や衛生安全を保全し、持ち運びやすいなどの機能がありますが、さらに軽量化や簡素化を促進することによって廃棄物の発生抑制ができます。そこで中身に対して容器包装の軽い商品に「減装マーク」をつけ、NPOごみじゃぱん(神戸大学)と消費者に紹介して購入を啓発しています。

### 容器包装ゴミを減らしたPB商品



スタイルワンマーガリン入りバターロール



減装ショッピングを消費者に説明する学生



店頭で販売している減装商品の紹介



子ども達へクイズを通じて説明

## 2 サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

### バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装はプラスチック製のものが多く、ほとんど石油製品です。石油など化石燃料は限りある資源であり、使い捨ての容器包装に枯渇が心配される貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また、石油を産出する時、焼却処分する時にはCO<sub>2</sub>を排出し、地球温暖化の一因とされています。そこで、ユニーは2006年から植物由来のバイオマスプラスチック製容器包装を使用しています。



#### バイオスマーク

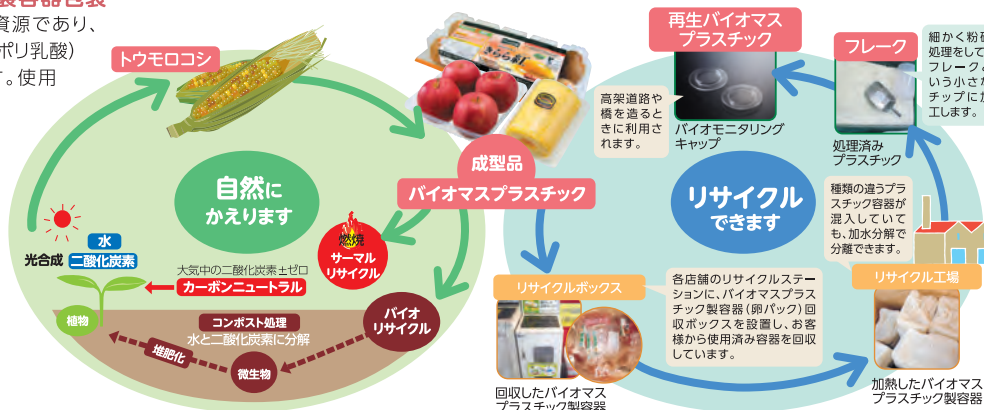
動植物を原料としたプラスチックで、使用後は水と二酸化炭素に分解され、自然に還ります。

#### ◆バイオマスプラスチック(ポリ乳酸)製容器包装

ユニーではサステナブル(持続可能)な資源であり、CO<sub>2</sub>を増やさないバイオマスプラスチック(ポリ乳酸)を青果売場と鶏卵パックに使用しています。使用済みの容器は回収しリサイクルしています。

#### バイオマスプラスチック(バイオポリエチレン)製容器包装

ユニーの有料レジ袋は植物由来のバイオポリエチレン25%含有品です。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは石油製品に比べ、17%CO<sub>2</sub>を削減しています。



## 3 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

### リサイクルボックスによる容器の店頭回収

ユニーでは家庭ゴミの削減と再資源化を図るために、使用済み容器包装を店頭回収しています。回収した容器包装は店舗ごとに重量を計り、その結果をポスターで公表し、再資源として国内循環ルートでリサイクルしています。2016年度は総回収量が前年比5.3%増加しました。今後は回収方法と輸送を見直し、圧縮機などの導入や効率的な配送でCO<sub>2</sub>の排出量削減に取り組んでいきます。



#### ◆リサイクルボックスでの店頭回収量

|           |        | アルミ缶    | 牛乳パック   | 食品トレイ   | ペットボトル    | 店舗総合計     |
|-----------|--------|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| 回収店舗数     |        | 207店舗   | 220店舗   | 220店舗   | 205店舗     | —         |
| 全社合計 (kg) | 2015年度 | 647,981 | 530,667 | 274,643 | 2,200,183 | 3,653,474 |
|           | 2016年度 | 680,056 | 534,436 | 279,441 | 2,352,252 | 3,846,185 |
| 前年比       |        | 104.9%  | 100.7%  | 101.7%  | 106.9%    | 105.3%    |

### 回収した容器はリサイクルセンターに集約

リサイクル回収の輸送にかかるエネルギーやCO<sub>2</sub>の排出などが問題にされることがあります。ユニーでは店舗から物流センター内にあるリサイクルセンターに搬送するときに商品配送便の帰り便を使うことにより、無駄な燃料やCO<sub>2</sub>の排出削減に努めています(現在中京地区・山静地区・北陸地区の物流センターにリサイクルセンターを設置。その他の地区は店舗から直接リサイクル工場に搬送しています)。リサイクルセンターでは、各店舗から回収した使用済み容器包装を計量し効率的に搬送しやすいように圧縮し、それぞれのリサイクル工場に搬出します。



弥富物流センター内のリサイクルセンター

#### ◆容器包装リサイクルの仕組み

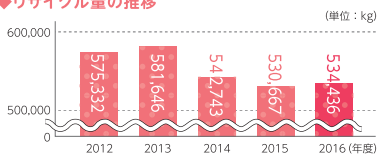


### 使用済み容器包装のリサイクルループ

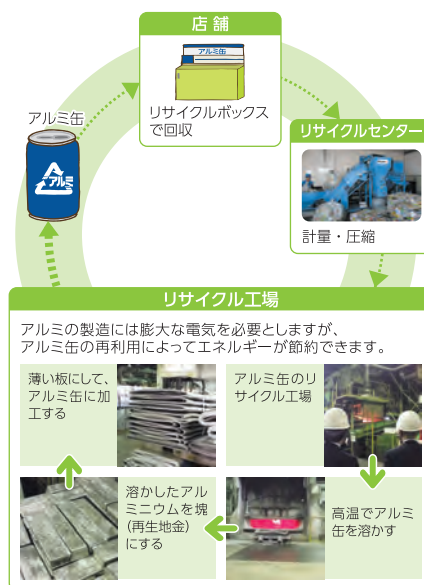
#### ◆牛乳パックのリサイクル



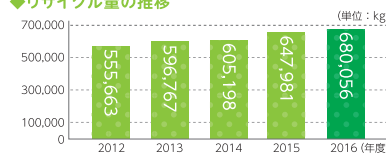
#### ◆リサイクル量の推移



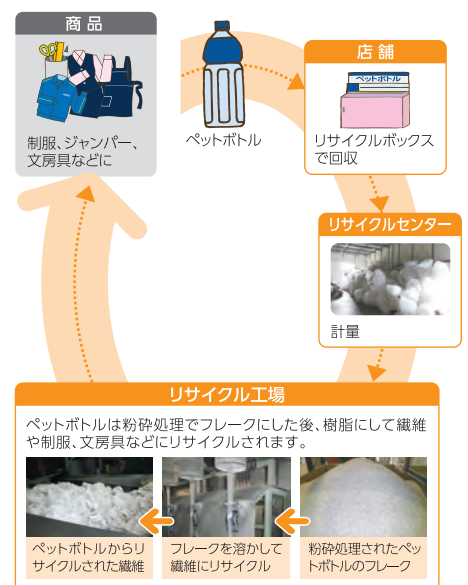
#### ◆アルミ缶のリサイクル



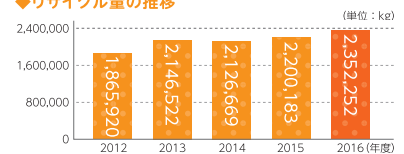
#### ◆リサイクル量の推移



#### ◆ペットボトルのリサイクル



#### ◆リサイクル量の推移

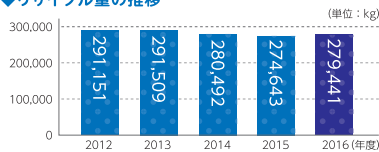




### ◆食品トレイのリサイクル

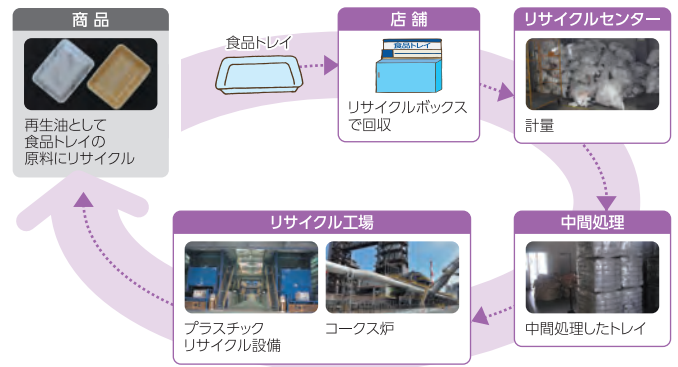


### ◆リサイクル量の推移



### ◆食品トレイのケミカルリサイクル

ユニーでは店頭回収した食品トレイを新日鐵住金のコークス炉化学原料化法を用いて熱分解し、衛生的で安全なプラスチック原料に戻し、原料の一部を食品容器に循環利用するケミカルリサイクルに取り組んでいます。



## ボトルキャップ運動

ユニーでは回収したペットボトルキャップを、再生プラスチックの専門企業いその株式会社に売却し、NPO「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付しています。また、再生プラスチックは自動車部品の原料としてリサイクルしています。ユニーはこうした使用済み容器包装の「アップサイクル」を目指しています。



### Voice ペットボトルキャップのリサイクル

ユニー様とのボトルキャップ活動を通して、世界の多くの恵まれない子ども達の大切な命を守り、また日本の自動車部品に使用されることで、CO<sub>2</sub>の排出を抑制し、地球環境に貢献しています。この活動で、当社の理念の「今こそ地球に恩返し」の実践をさせて頂いております。キャップの回収に関わる皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございます。



いその株式会社  
社長 磯野 正幸さん

## お客様から回収した製品をリサイクルする取り組み

### ◆下取り企画

ユニーではお客様から使用済み容器包装だけでなく、使用済みの商品を下取りし、資源としてリサイクルしています。



#### 下取り品目

- ・フォーマルウェア
- ・ビジネスウェア
- ・肌着
- ・ボトム
- ・羽毛布団



告知ポスター

### Voice 羽毛布団のリサイクル

春と秋の年2回、アピタ・ピアゴのお店でお客様から羽毛布団を回収し、グリーンダウンとしてリサイクルしています。売却の収益金を使用して和歌山県と三重県の熊野古道の環境保全の寄付活動に寄与しています。次世代の子供達に熊野古道の道普請などの保全活動を体験していただくとともに、羽毛循環資源を多くの皆様にお伝えし、焼却処分による二酸化炭素の排出を抑制し地球環境保全に努めています。



有限会社エコランド  
黒田 健さん

